

令和6年度第2回広島市食育推進会議 会議要旨

1 開催日時

令和7年2月4日（火） 19:00～20:30

2 開催場所

広島市役所14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員（15名）

渡部副会長、川崎委員、篁委員、高蔵委員、下條委員、小島委員、細原委員、元廣委員、
福田委員、谷迫委員、田中委員、浦田委員、畑田委員、加納委員、渡邊委員

(2) 事務局（13名）

（健康福祉局）

保健医療担当局長、保健部長、参与(事)健康推進課長、医務監(事)歯科保健担当課長

（市民局）

生涯学習課長

（こども未来局）

こども未来調整課長、幼保企画課保育園運営指導担当課長（代理）、

こども青少年支援部母子保健担当課長（代理）

（環境局）

環境政策課長（代理）

（経済観光局）

農政課長（代理）、水産課長

（教育委員会）

健康教育課長、指導第一課長

(3) オブザーバー

広島県健康福祉局健康づくり推進課 主査

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴人

1名

6 議事

(1) 令和6年度の取組状況及び今後の食育推進について

(2) その他

7 配付資料

資料1 令和6年度 第4次広島市食育推進計画に係る主な取組（本市関係分）

資料2 令和6年度 第4次広島市食育推進計画に係る主な取組及び令和7年度計画
（広島市食育推進会議 委員推薦団体分）

資料3 令和7年度 食育に関する取組について

参考資料 中間評価を踏まえた重点取組について

8 会議要旨

- (1) 令和6年度 第4次広島市食育推進計画に係る主な取組（本市関係分）について

事務局

資料1に基づき説明

- (2) 令和6年度 第4次広島市食育推進計画に係る主な取組及び令和7年度計画（広島市食育推進会議 委員推薦団体分）について

資料2に基づき、中間評価を踏まえた3つの重点取組に沿って、各団体から説明

高蔵委員

広島市私立保育協会では、保護者に対し、「早寝早起き朝ごはん」を合い言葉とし、保育参観や運動会等の行事の際に、朝食の大切さについて伝えている。

令和7年度は、令和6年度と同様に実施する予定である。

細原委員

広島市歯科衛生連絡協議会では、広島市歯科医師会主催の学校歯科医協議会において、広島市立学校の養護教諭と学校歯科医を対象に、学齢期のこどもの歯・口の健康づくりと食育の重要性について講演を行った。

中間評価において、よく噛んで食べるなどの食べ方に配慮する人の割合が、ベースライン値から悪化し、特に30歳代男性や一人暮らしが低くなっている。また、朝食を食べることが習慣になっている者の割合についても悪化しており、特に20歳代、学生、一人暮らしが低い結果であった。

令和7年度の取組については、これら2項目に共通する「若い世代」を意識し、SNSを活用した啓発を計画している。具体的には、朝食の摂取とよく噛むことを組み合わせ、健康面だけでなく脳の覚醒により眠気が覚めて、勉学や勤務にもメリットがあることを伝えるよう予定している。

元廣委員

広島県栄養士会では、朝食に関する食育啓発活動について、県のひろしま食育・健康づくり実行委員会の構成団体として、保育園における保護者セミナーを開催した。

内容は、家庭で簡単にできる栄養バランスのよい朝食について等の講演及び実演を行った。

来年度は今年度の取組に加え、広島県産の食材の活用についても伝えていくことを考えている。

笹委員

広島市私立幼稚園協会では、輪食の大切さを知り、テレビやゲーム等から離れ、会話を楽しみながら食べることにについて啓発している。

核家族化や両親の就労等により、少人数での食事が増えてきているように感じる。低年齢の幼児においても、タブレットやテレビゲーム等を見ながら食事をしている状況もある。

テレビやゲーム等から離れ、家族と会話を楽しみながら味わって食べることで、食事に対して、こどもが「これはなぜ？これはなに？」といった疑問から、こどもが食における大切なことを身につけていくことができるよう、輪食の大切さを保護者等に伝えているところである。

令和7年度は、令和6年度と同様に実施する予定である。

畑田委員

多くの地域でこども食堂が開設されており、広島市民生委員児童委員協議会が関わりをもっている。最近はこどもだけではなく、高齢者も含め多世代が交流する場になってきている。

地域によっては、高校のボランティア部が参加したり、大学の福祉関係者等が民生委員児童委員の活動に参加するインターンシップ等が行われている。こういった場で、3つ「食」の大切さについて話し合っている。

また、小学校の高学年を対象に、栄養士による「食の大切さ」についての講話と、調理実習を開催した地域もある。

令和7年度も、これらの取組を行う地域を増やし、啓発に繋げていきたい。

下條委員

広島市PTA協議会では、市の給食献立作成委員の選出に携わり、広島産の野菜等を給食のメニューとして提供することで、地産地消等の啓発に繋げている。また、阿戸小中学校による農業体験活動を毎年実施している。この、農業体験活動や、コミュニティ・スクールとして地域で実施している取組等が、優良PTA文部科学大臣表彰を受賞することとなった。

これらの取組については、令和7年度も同様に実施する予定である。

福田委員

広島市農業振興協議会の多くの会員農家が、生産者と消費者の結びつき強化の取組や、推進活動に参加した。代表的な例としては、伴のピーマン、小松菜、祇園パセリの内容で地産地消ツアーを実施した。学校給食に広島菜や祇園パセリ等、地元食材を用いた独自献立に対する食材提供にも力を入れている。

また、フードフェスティバルへ参加し、祇園パセリや広島菜の販売、各広島農産物産品の食べ方提案等を行った。

来年度も引き続き令和6年度と同様の活動を推進していく。特に地元産品等の活動の幅を広げるとともに、より消費者と顔の見える朝市等の取組にも力を入れていきたい。

谷迫委員

広島市漁業協同組合では、令和6年度に、ひろしまフードフェスティバルへ参加してカキフライの販売を行った。

また、「広島かき子ども体験隊」を1月と3月に開催する。広島かきがどのようにできるのか、かきの収穫作業を見学したり、かき養殖について勉強会を開催するなどして、地元を代表する広島かきに対して愛着心を育むとともに、食の大切さや地産地消に対する理解を深めることを目的に開催している。

今後、かき祭りやかきの販売等を予定しており、地産地消として、かきの普及に貢献していきたい。

田中委員

日本チェーンストア協会中国支部は、(株)イズミ、イオンリテール(株)西日本四国カンパニー、(株)天満屋ストア、(株)大創産業、(株)丸合、(株)丸久、(株)フジの7社で活動している。

地産地消に関しては、地元農畜産物の販売や、地元の農家と提携した地産地消のコーナーを特設して積極的に販売している。

食品ロスの削減については、フードドライブやフードバンクポストを店舗の中に設置し、お客様から1か月以上の賞味期限がある食品を寄贈していただき、フードバンク広島、フードバンク山口、フードバンク北九州ライフアゲイン等に提供している。

また、青果物、加工食品及びパン等を、こども食堂、地域食堂、更生保護施設及び動物園等に提供し、食品ロスの削減に努めている。

「5 A DAY 食育体験ツアー」では、保育園、幼稚園、小学校を対象に、栄養士による栄養素等の学習を行った後、店舗の青果コーナーで野菜や果物を買物するゲームや、野菜の収穫体験等、楽しく学習できる活動を実施している。

(株)フジでは、食品リサイクルループが構築されており、野菜残渣を肥料にし、提携した農家が栽培した「風早の玉ねぎ」を店頭で販売しており、ふるさと納税の返礼品にも活用されている。

浦田委員

広島消費者協会では、毎年、県内近郊の農産物の生産現場を視察し、生産者等との交流会を実施している。

産地に出向くことによって、より専門的な視野で説明を受けることができることから、今後も交流会を行っていきたい。

小島委員

広島市医師会として、食に関しての取組として、特に学校での食物アレルギー対応について研修会等の協力をしている。

議長（副会長）

他の団体と連携したい取組やアイデアなどがあれば御提案いただきたいが、いかがか。

田中委員

市民生委員児童委員協議会から地域食堂の話があったが、例えばスーパーマーケットから、野菜等の食材提供は受けているのか。

畑田委員

NPOからの援助や、農家等からの差し入れがある。

一部のスーパーマーケットから賞味期限が近い食材を提供してもらっているところもある。

こども食堂は、運営が難しい部分はあるが、各地区で一つは開設されており、徐々に増加している。また、こどもだけでなく、高齢者の憩いの場にもなっており、多世代の交流が生まれている。

田中委員

(株)丸久では、こども食堂等に、主に青果部から食材提供をしている。食材を渡した後、に万が一食中毒が発生したらどう対応するか等、反対意見もあったが、こども食堂側が保険等で対応することを条件に食材を提供している。

実施していないスーパーマーケット等においても、このような取組を広められると良い。食品ロスの削減と社会貢献活動を実現することができる。

川崎委員

各団体、幅広く重点目標について取り組んでおり、特に「みんなで食べる」というところを積極的に取り組んでいると感じた。

みんなで場を共有するだけでなく、幼稚園協会からの発言にあったように、「これはなぜ？これはなに？」といった疑問を引き出し、会話を深めていくことが次の課題であると感じた。

各団体、現在の取組を拡充するだけでなく、取組を整理しながら、できるだけ長く継続できる活動にしていきたい。特に物価上昇に伴い、廃棄を軽減させる取組が非常に重要であると考えている。

また、問題点として挙げられた30歳代、一人暮らし及び勤労者に対しては、企業の健康経営等により、所属する職員に対して働きかけてもらうことで取組むことができるのではないかと感じた。

渡邊委員

広島生鮮産品連絡協議会の生鮮産品ひろしまそだちクッキングを昨年末に開催した。これは、広島産の食材等を用いて献立をたて、親子で料理をする教室で、調味料を含めてほぼ広島産の食材等を用いて献立をたてることができた。買い出しの際、すぐ見つかる広島産の食材もあれば、見つけにくいものもあったことから、広島産の食材等が多くあることを知ってもらえるような売場があればいいと感じた。

県外の事例で、朝ごはんを大学で食べる「スクールモーニング」という取組がある。これは、企業とコラボし、朝、大学等にキッチンカーが来て、モーニングを食べることができる取組である。朝食を食べることが良いことという風潮が少しずつ広がっているように感じる。

企業と連携した他自治体の取組として、神戸市が「KOBE EATS」という取組を行っている。これは、神戸市に住んでいるひとり暮らしの大学生が、希望すれば神戸市の企業が提供した食材を受け取ることができる取組である。

提供される食材には企業名が入っており、協賛企業を知ることで地場産業や地元企業を知るきっかけになる。また、賞味期限が短いものが入っているなど、フードロスの取組も行われている。食材の入った段ボールが本棚になることや、その中に心の相談の窓口の冊子が入っているなど、トータルケアができるパックであると感じた。

このような様々な取組を活用し、生活環境が変化する20歳前後の人たちのサポートができればよいと感じた。

加納委員

前回の中間評価の結果が目標どおりいかないことが多く衝撃的であった。マスコミとしても、啓発に協力していかなければいけないと感じた。

食事は、個人的な意識による部分がかなり多いため、外部から口出ししてもらいたくないという意識がある人も当然いる。そういった人たちにどのようにアプローチしていくかが重要である。

小中学生では朝食を食べているケースが多いが、高校生や大学生になると、夜遅くまで、スマホを見て朝起きられない人や、経済的に苦しいから1食を抜かすために食べないという人もおり、様々な要因があって、現代の若い世代が朝食を食べないのだと感じる。

若い世代へのアプローチは、SNSを活用した発信が効果的で、地道に粘り強く取り組んでいくことが大切であると感じた。

また、様々な食品の価格が上昇しているのも、これは逆手にとり、食品ロスの削減や、地産地消等の取組を積極的に取組んでいけたらよい。

LECTにおいて、学校給食の献立表が売場に掲出されており、夕飯の食材を購入するときの参考にすることができるようになっている。こういった取組が他の店舗でも広がっていけばよいと感じた。

(3) 令和7年度 食育に関する取組について

事務局

資料3に基づき説明

議長（副会長）

本日の議論を踏まえて、今後も充実した食育の取組ができるよう、また、団体間においても連携した取組を行い、発展した食育の取組が行われるよう、引き続き、皆様方の御協力をお願いしたい。

事務局

活発な御意見をいただき感謝する。

なお、広島市食育推進会議の委員の任期は2年であり、現委員は令和7年8月31日をもって任期が終了となる。

委員の皆様においては、第4次広島市食育推進計画の策定及び推進に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。